

学校評価アンケート結果報告

令和7年1月
大阪高等学校

本校では、よりよい学校づくりを目指して改革を続けております。教育環境を整え、より大きな教育成果をあげることを目的に、様々な取り組みを重ねて参りました。その成果を検証するとともに、さらなる改善に向けた課題形成を図る機会の一つとして本年度も学校評価アンケートを実施しました。集計結果に分析を加え、学校改革・教育改善の進捗をお伝えすべく、本書面をまとめました。ご高覧のうえ、忌憚のないご意見等を頂戴できれば幸甚です。

学校長 岩本信久

凡例と集計方法について

凡例: ■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う

集計結果は、断りがない場合、「わからない」を除いた有効回答を分母とした百分率で表示しています。グラフ内の値は小数点以下を四捨五入しているため、表示が一致しないことがあります。今後も情報発信の充実を図り、意図の説明をはっきり行うことで、回答留保のないご明確なご判断を皆様に仰げるよう努めて参ります。

「入学させて良かった」は9割超を維持

Q1 お子様を大阪高校へ入学させてよかったと思われ
ますか。(≡総合的な満足度)



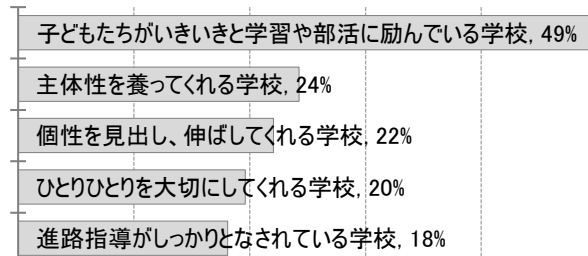
毎年お尋ねしている「大阪高校に入学させてよかったか」という質問では、肯定的な回答が9割以上の状態を維持できました。しかしながら、「そう思う」の選択はわずかに減り、「どちらかといえば」という但し書きの付く答えが占める割合が大きくなりました。今回の調査や様々な場でのコミュニケーションを通して、改善課題の所在をその優先順位とともに明らかにした上で、一つひとつその解消を図っていくと同時に、学校に向けられた期待をさらに超える教育活動を展開し、「大高を選んで良かった」との声をこれまで以上に増やしていきたいと思います。

教育改善に投じられるリソースには限りがあることに加え、教育活動の充実を全方位で満遍なく図ることは、生徒の負担も大きくし、一つひとつの学びにじっくり取り組めなくする恐れがあるとの認識は、昨年と変わりません。アンケートで寄せられた回答データを精査・解析し、歪を作らず、最大の改善効果が得られるよう、学校経営の戦略を練っていきます。

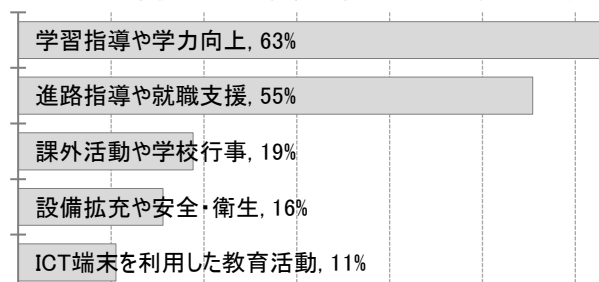
1年前からの取り組みの成果としては、学習指導、進路指導への評価が顕著に改善しました。自律学習や行動選択といった好ましい行動・姿勢の獲得も進んだようです。日々の教育活動における観察や指導の工夫を通して教職員が得た気づきや知見の共有もこれまで以上に推し進め、全員の知恵を持ち寄って有効な改善プランの描出に引き続き取り組んで参ります。引き続きご期待を持って「より良い学校作りへの取り組み」を見守っていただければ幸甚です。

学校のイメージと改善課題

Q2 本校の特徴として次のどれが当てはまりますか。



Q3 学校にさらなる充実を求めたいものは何ですか。



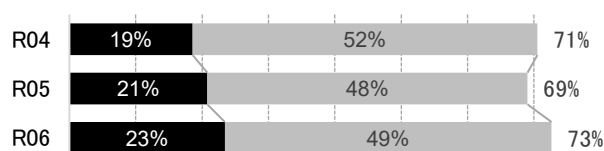
本校の特徴では「子どもたちがいきいきと学習や部活に励んでいる学校」が多くを占めるのに変化はありません。新しい時代の要請に沿った教育改革を進める中でもイメージや期待に違わない学校経営を今後も心掛けます。充実を求めたいものに、「学習指導や学力向上」「進路指導や就職支援」が多く上がるのも過年度の調査の結果と同じです。獲得さ

せたい資質では「将来を切り開いていく力」の選択が最多です。土台となる確かな学力の形成と生徒一人ひとりの資質と志向に合致した進路の発見と実現に今後も学校を挙げて全力で取り組んで参ります。

学習指導と進路指導のさらなる充実

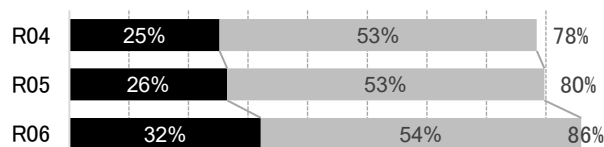
「学習指導や学力向上」「進路指導や就職支援」でのさらなる充実を求める多くの声に応えるべく様々な改善策を講じてきました。一定の評価を得ることはできましたが、さらなる改善を目指し、これまで以上に実効性のある改善計画を推し進めていきます。

Q4 学習指導は充実しており、学力向上に十分な成果を挙げていると思われますか。



学習指導に対しては昨年度を超える評価を得ましたが、肯定的な回答が占める割合は7割を超えるところに止まっており、「どちらかと言えば」が多くを占めている状態です。授業評価アンケートの結果も踏まえて、教科学習指導のスキル向上、新しい学力観を反映した授業作りに日々取り組んできましたが、引き続き、校内外の優れた実践に学び、個々の教員の授業者としての成長を図るとともに、組織的な取り組みを推し進めます。教科固有の学習内容の確かな定着に加え、協働性や多様性、主体的に学ぶ姿勢などの涵養にもこれまで以上に注力します。また、大高の学び（授業のみならず広範な教育活動）を、保護者の皆様にも実際にご覧いただく機会を授業参観（本年度は育友会主催で6月に実施）などで整えます。

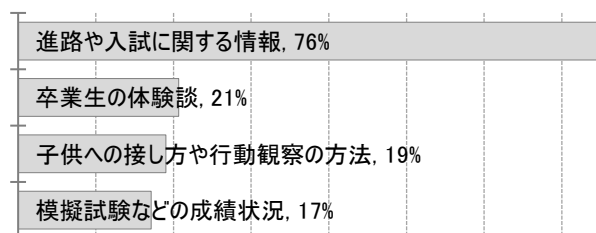
Q5 進路指導が充実しており、生徒の希望進路の発見・実現に十分に役立っていると思われますか。



進路指導への評価も昨年度を上回りました。まだ改善の余地は小さくありませんが、これまでの取り組みを精査し、その効果をさらに高める工夫を重ねて参ります。3年生保護者からは、引き続き概ね良好

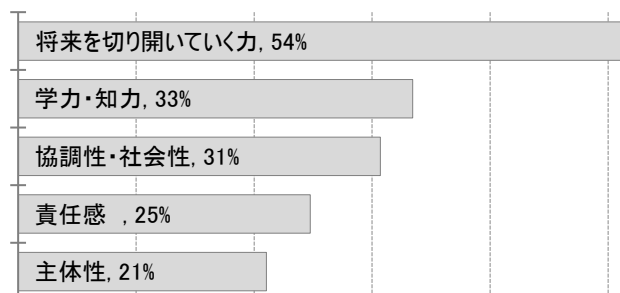
な評価を得ていますが、本年度は1年生、2年生での改善が大きく観測できました。入学から卒業までを見通した計画的な進路指導を実践できる指導スキルの向上とアップデートにも引き続き取り組んでいきます。文理特進、総合進学、探究の各コースが目標とする多様な進路の実現を目指し、「生徒一人ひとりが社会と自分に向き合う機会」の整備にも努めます。

Q6 保護者会などで取り上げてほしいことは？



「保護者会やクラス懇談会で取り上げてほしいこと、充実を望むことはどれですか」という質問に対し、「進路や入試に関する情報」の選択がこれまで同様に多く見られ、進路を取り巻く状況と実際の指導の様子に強い関心が向けられていることを改めて認識したところです。他の項目では回答の分布にコースや学年ごとの特徴も見取れます。それぞれのニーズをより精緻、且つタイムリーに把握した上で、必要な情報を余さずに届けていきたいと考えています。

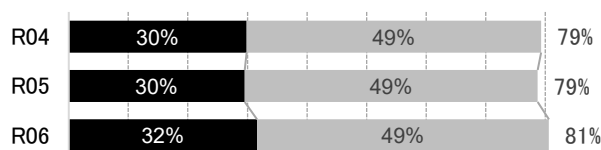
Q7 子どもに獲得させたい資質はどれですか。



子どもに獲得させたい資質に上がった項目の分布にこれまでと大きくは変わるところはありません。他を大きく引き離すトップに位置する「将来を切り開いていく力」の獲得には、引き続き、最優先で取り組んでいます。生徒が自らの将来を切り拓く力の源は「確かな学力」であり、それを正しい向きに働かせる羅針盤と舵は「進路指導」です。まずは、これらの一層の充実を図ります。「協調性・社会性」「責任感」の選択率は、学年が上がるごとに高まります。個々の生徒の内で発揮される力を着実に涵養しつつ、それらを社会で活かす方法を段階的に学ばせていきます。

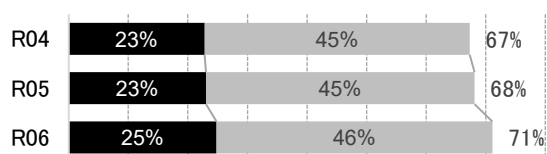
目標をもってひたむきに頑張る姿

Q8 保護者の目から見てお子様は、学校生活の様々な場面で目標をもってひたむきに頑張っていると思いますか。



「学校生活の様々な場面で目標をもってひたむきに頑張っていますか」という問いへの肯定的な回答が占める割合は昨年まで低下が続いていましたが、今年はわずかながら回復しています。生徒の情熱とチャレンジを応援するのは「校是」です。生徒一人ひとりが自分の目的を見出させるよう、「振り返り」と「次に向けた課題の設定」にこれまで以上の力を入れて指導に当たります。別質問で尋ねた「頑張る対象」で教科学習や進路実現、クラブ活動を挙げた保護者がこの問い(Q8)に肯定的な答えを選ぶ傾向は、今年も変わりません。興味・関心を刺激する授業の実践、自分の将来に向き合う機会の創出、一人ひとりが活躍できる部活の環境作り等に改めて取り組みます。新たに選択肢に加わった「放課後 長期休暇の特別活動」を選んだことでのプラスの変化も見取れます。

Q9 お子様は、自分なりの目標や課題をもって日々の学習に取り組めるようになりましたか。



学習面に絞ってお尋ねした「お子様は、自分なりの目標や課題をもって日々の学習に取り組めるようになりましたか」という質問でも、肯定的な回答が徐々に増えてきています。「そう思う」の選択率を増やすために今後も改善に取り組みます。生徒一人ひとりが「自分なりの目標や課題」をもって学業に取り組むには、進路意識の芽生えを待つより、日々の学びでの効果的な振り返りを通し、より良いパフォーマンスを得るのに必要なことを考え出す力(メタ認知・適応的学習力)の涵養を図りつつ、次に向けた自分の目標を的確に設定させることが有効と考えます。斯様な指導に、すべての教科の授業担当者が目線を合わせて取り組んでいこうと思います。考査や模試に向け

た準備(計画と実行)は好適な指導の機会です。また、進路意識の形成を支え、後押しすることで、生徒一人ひとりが「学ぶことへの自分の理由」を見つけられるよう、今後も「学習・探究・進路の各指導の統合」の加速に全校を挙げて取り組んで参ります。

安全確保と規律ある生活の実現



「生徒の安全に対する学校の取り組み」は引き続き高い評価をいただきました。「高校生にふさわしい規律ある生活」は昨年まで続いた低下から2ポイントほど回復しました。両項目とも、「どちらかと言えば」との但し書きの肯定に止まる答えが多く、指導には見直すべき点がまだありそうです。後者については、強い相関で結ばれる「目標努力」「行動選択」「自律学習」などの項目群と一体で改善を図ってきましたが、今後もその方向で指導に当たります。

学校広報のさらなる充実を図ります

Q12 学校からの連絡文書や懇談会などを通じて学校の様子は十分に知ることができますか。



学校広報については昨年とほぼ同じ評価で、まだ肯定的な回答の占める割合が9割に届かないところで「足踏み」です。新たな教育を展開する中、特色ある教育活動に関心が高まっており、発信する情報の選択に新たな視点が必要と感じています。学校HP情報発信も、これまで以上にしっかり取り組みます。

Q13 進路希望や将来の職業あるいは学校での様子などについて家庭で話をすることはありますか。

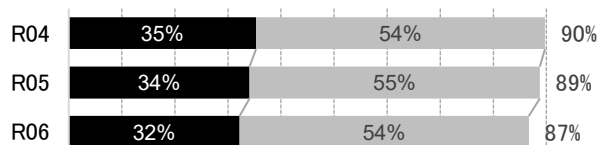
- ①話をする機会がよくあり、保護者も関心をもって会話に臨んでいる
- ②話をする機会はあるが、あまり突っ込んだ話にはならない



進路のことや学校での様子には関心がありながら、なかなか突っ込んだ話にならない様子が窺えます。家庭での対話は生徒の成長に不可欠です。時期に応じた話題と材料の提供に、今後も努めて参ります。

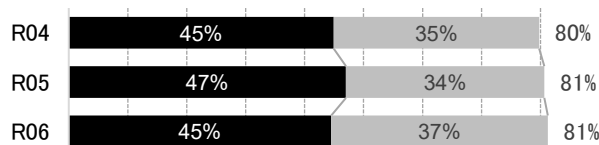
学校行事、部活動の指導

Q14 学校行事が充実しており、行事についての様々な工夫や学校の姿勢が強く感じられますか。



総合満足への寄与度の大きい項目ですが、評価は低下傾向です。放課後や長期休暇に特別活動の新設が続きますが、以前から行われてきた様々な行事も主体性や協働性を育む教育の場として不可欠です。今後も「生徒が主役の学校行事」の実現に努めます。

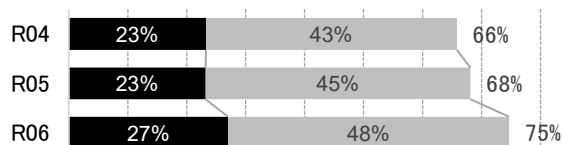
Q15 生徒の部活動に対して、クラブ顧問は熱心に指導していると思われますか。



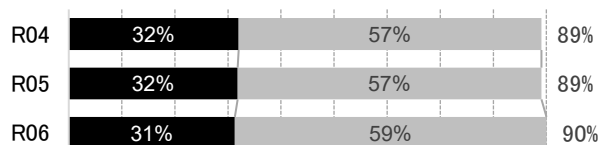
部活動顧問の指導には、これまでと同様の評価をいただきました。「わからない」と回答を保留される割合は4割を超えており、ご家庭で顧問団の指導を評価する材料不足という課題は今年も残りました。

将来を考えた行動選択、共存の資質

Q16 保護者の目から見てお子様は、自分の将来と結びつけて今なすべきことを考えられるようになりましたか。

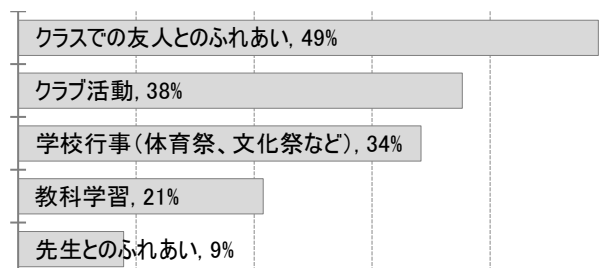


Q17 保護者の目から見てお子様は、立場の異なる相手の意見にもちゃんと耳をかたむけるようになりましたか。



保護者の目を通した生徒の成長ぶりを「将来と結び付けた行動の選択」「立場の異なる相手に耳を傾ける姿勢」についてお尋ねしました。いずれも、肯定的回答の多くが「どちらかと言えば」との但し書き付きであり、さらなる我が子の成長への保護者の期待が読み取れる結果です。昨年まで振るわなかった前者は、一年間の指導の工夫の積み重ねで一定の改善が得られました。あらゆる機会を通し、「メタ認知・適応的学習力」の涵養にこれからも注力していきます。

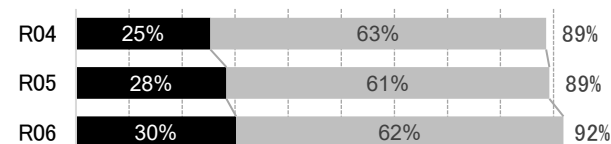
Q18 お子様在意欲的に取り組んだり評価していることは何ですか。



育友会の活動、保護者との相互理解

育友会の活動に「関心がある」は33%（昨年も33%）、「内容を知っている」は33%（同27%）でした。活動と広報の両面で大きな不足が否定できない結果です。

Q20 学校は、保護者や地域からの要望・意見に対して誠実に対応していると思いますか。



保護者のご要望や意見への学校の誠実な対応には肯定的な評価が増えてきましたが、まだ但し書きのない「そう思う」がようやく3割に達したところで、アンケートで寄せられた声にしっかり向き合い、着実に応えていこうと思いを新たにしております。

大阪高校は今後も改革を続け、地域の期待に応える学校、在校生・卒業生が今以上に誇りに思える学校を目指します。今後ともご支援とご協力をお願いします。

本報告書へのご意見・ご質問は下記にて承ります。

TEL:06-6340-3031 FAX:06-6349-3719

保護者による学校評価アンケート担当: 教頭 北村恭崇